

令和5年度（2023年度）

印旛地区教育研究集会

外国語研究部 提案資料

<研究主題>

コミュニケーションの連続性を

高める授業の工夫

～帯活動と拡充英語を通して～

成田市立下総みどり学園 英語科

高橋 知恵子 奥野 日菜 鈴木 繭子

## 1 研究主題

「コミュニケーションの連続性を高める授業の工夫 ～帯活動と拡充英語を通して～」

## 2 主題設定の理由

### (1) 現在の教育課題から

前回改訂（平成20年度）の学習指導要領では、小・中・高等学校で一貫した外国語教育を実施することにより、外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度や、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする力を身につけることを目標として掲げられた。また、4技能を総合的に育成することをねらいとして改訂され、様々な取組を通じて指導の充実が図られてきた。その結果、小学校外国語活動の成果として、英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度が育成され、聞くことおよび話すことの活動に慣れている生徒が増えていることを踏まえ、中学校では、授業における教師の英語使用や生徒の英語による言語活動の割合が改善されてきている。今改訂（平成29年度）では、小学校中学年に新たに外国語活動が導入され、より一層小中英語学習のスムーズな接続が求められていることを受け、小学校での学びを活かした中学校英語授業を重要としている。また、4技能5領域の設定により、「話すこと」が「やりとり」と「発表」に分けられたことで、やりとり・即興性を意識した言語活動が十分に行われることがねらいの一つである。このような目標に向かって、関心のある事柄から社会的な話題まで、一層幅広いコミュニケーションを図ることができるようにするため、互いの気持ちや考えを伝え合う対話的な言語活動を重視し、具体的課題を設定するなどして学習した語彙や表現を実際に活用する活動、すなわち言語活動の実質化を図る必要がある。

### (2) 成田市の取り組み

成田市では、平成8年度の成田小学校の研究開発を発端に20年以上、小中学校が連携した英語学習に関する研究が進められてきた。現在では教育課程特例校として、小学校で独自の教育課程を編成して英語学習を実践しており、中学校でも英語科授業を週4回から週4.5回に拡充し、英語によるコミュニケーション能力の育成を図るために独自カリキュラムとして週0.5時間分の「拡充英語」を設定し、自己表現活動を中心とした英語科授業を展開している。（本校は義務教育学校であることから教育課程特例校としての認可は受けていないが、市内小中学校と同様のカリキュラムに基づいた英語科授業を実施している。）その成果として英語学習を楽しむ児童生徒が多く育ってきている。

中学校における拡充英語では、小学校で学んだ内容と学び方を、中学校で異なる目的・場面・状況を設定して学習し、より発展的な対話的で深い学びとなるよう取り組みが進められている。ALTとのティームティーチングを基本とし、実際のコミュニケーションにおいて必要な知識や技能を身につけるようにしている。

### (3) 学校および児童生徒の実態

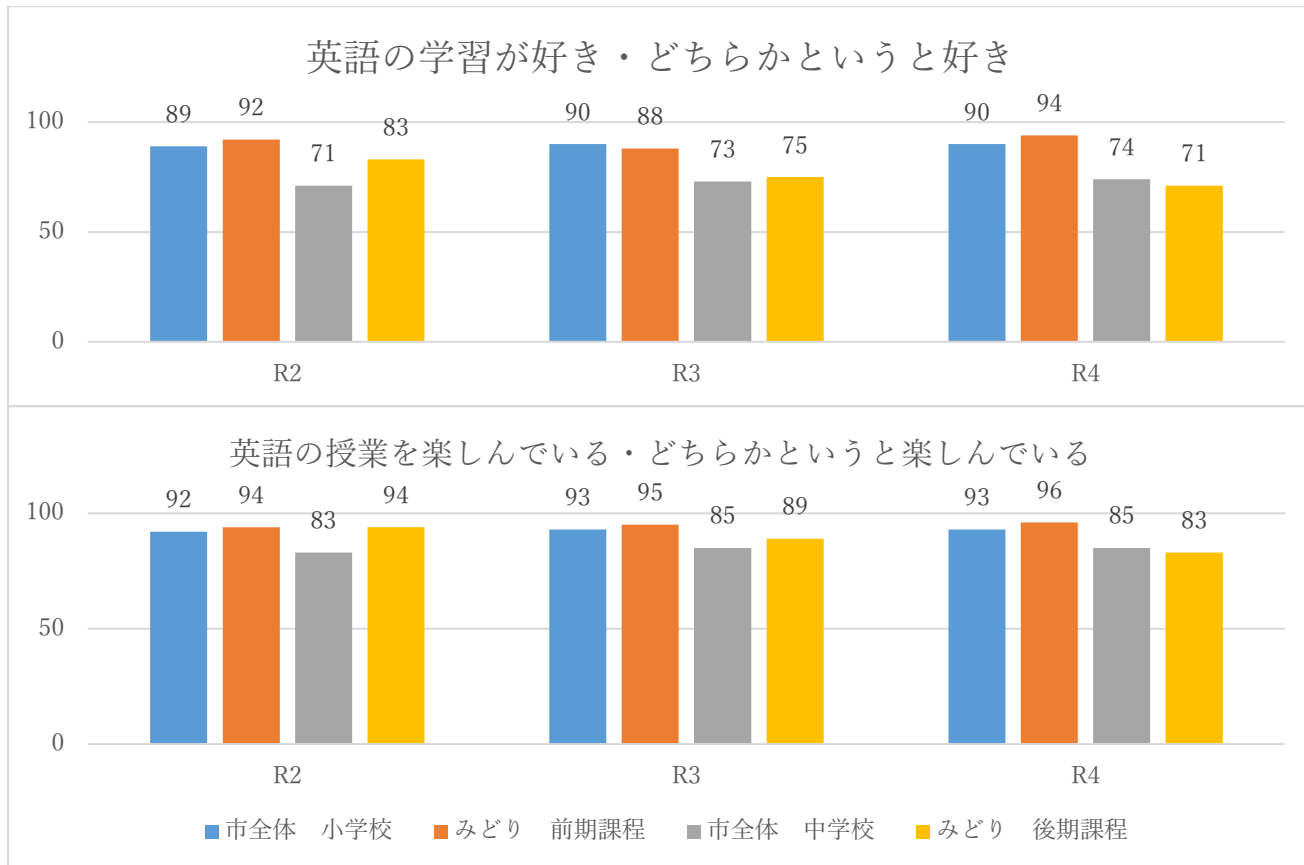
本校は、平成26年度に下総地区4小学校（滑河・小御門・名木・高岡）と下総中学校が統合し、小中一貫教育校として開校、その後学校教育法改正に伴い「義務教育学校」となった新しい学校である。従来の小学校段階（1～6年）を「前期課程」、中学校段階（7～9年）を「後期課程」とする区分の他に、4・3・2ブロック制（前期：1～4年、中期：5～7年、後期：8・9年）を採用しており、5年次より教科担任制による授業を実施している。「地域とともに夢と希望に向かってたくましく生きる下総っ子」を学校教育目標とし、9年間の連続した学びの中で、互いに交流しながら様々な活動を行い、心身の成長を育んでいる。

現在、9学年合わせて児童生徒は375人、特別支援学級4学級を含めた合計20学級の小規模校である。本校の児童生徒は、明るく素直で礼儀正しく、義務教育学校ゆえの仲の良さで学校行事や学習にも協力しながら前向きに取り組んでいる。一方で、基礎学力が定着していない児童生徒が多い。毎年1～8学年で実施している成田市学力状況調査では、ほぼ全学年全教科で全国平均を下回っており、学力向上に向けた指導の工夫が課題となっている。英語科においても全国平均とほぼ同程度、かつ市内平均を下回る結果である。生徒の英語学習に対する意欲については、以下のアンケートで把握した。

#### ※アンケート調査「成田市英語科アンケート」

対象者：成田市内小中学生（各年約4000人）／本校児童生徒（各年約350人）

実施時期：令和2・3・4年度（各年度12～1月）



成田市が毎年実施している英語科アンケート（生徒・保護者・教員対象）からは、市内他小中学校と同程度の割合で、本校児童生徒が英語学習に意欲を持って取り組んでいることがわかる。一方で、「英語学習が好きかどうか」「授業を楽しんでいるかどうか」のどちらにおいても、前期課程（小学校段階）と後期課程（中学校段階）の意識差があることがわかる。前期課程で週1時間（1～4年）または週2時間（5・6年）に対し、後期課程では週4.5時間（7～9年）という授業時数の違いや、学習内容による違いも当然あり、いわゆる中1ギャップを完全になくすことは難しいと思われるが、本校は義務教育学校であり、その影響を最小化できる可能性を大いに有している。前期課程での英語活動を最大限に活かした英語授業を後期課程で実践し、真のコミュニケーション能力を身につけさせることを目指したいと考えた。

また、中学校学習指導要領第2章第2節（英語）2(3)①言語活動に関する事項のアとして「小学校における学習内容の定着を図るために必要なもの」が挙げられ、特に7年生（中学1年生）の教科書の構成が大きく変わった。ONE WORLD（教育出版）ではLesson1・2で小学校既習の言語材料を扱うが、小学校と同様に生徒の身近な生活に即したコミュニケーション活動を重視した構成である。小学校で身につけた、音声言語としての基礎的な英語の力を、文字言語としての基礎的能力の定着に繋げていく工夫が求められる。

本校の考える義務教育段階で生徒に身につけさせたい英語力とは、英語を使って自分の意見や気持ちを表現できることであり、それを誰かに伝えて理解してもらうこと、誰かの意見や気持ちを理解できること、一方的ではなく双方向で意見や気持ちなどを連続してやりとりできることである。すなわち、即興でやりとりする能力を発揮して同じ話題で話の内容を深めたり、関連する内容へ話を広げたりするなど、互いに協力して対話を継続・発展させていけることを「コミュニケーションの連続性」が高いと定義し、その資質・能力の向上を目指している。近い将来、未知の世界に飛び込み、他者との協働を通じてコミュニケーションをよりよく連続させながら、大きく飛躍して行ってほしいと切に願う。

以上のことから、継続的に取り組む帯活動や、既習事項活用機会としての拡充英語授業等において、コミュニケーションの連続性を高めることで、真のコミュニケーション能力を身につけさせる方法を追求することとした。

### 3 研究仮説

仮説1 帯活動において、使える表現をスモールステップで増やししながら、やりとりの質を高めていけば、コミュニケーションがよりよく連続するようになるだろう。

仮説2 拡充英語や課末の言語活動において、具体的な使用場面を設定し、モデルを多く示して意義のある言語活動に協働的に取り組んでいけば、即興でやりとりする能力が高まるだろう。

## 4 研究の内容

### (1) 「仮説1」検証のための実践 \* 帯活動

#### ア：Small Talk【毎授業で実施。3～5分】

ALT や JTE が授業開始の挨拶の流れで日常的な話題を提供し、生徒と会話する。

- ・ How are you? How was your weekend? 等
- ・ JTE は生徒の反応を見ながら補助する。英文を繰り返す、キーワードを強調等。

#### イ：ペアでの Q&A 活動【週3程度実施。10～15分】

Small Talk からの流れや、教科書の単元に関わる内容についての対話活動。

- ・ 隣同士の2人組。奇数の場合は ALT や JTE が入る。
- ・ ペアによる Q&A を1～2ターン行ってから、役割交代し同様に1～2ターン。  
1st Question は固定。全体で意味と 1st Answer のモデルを確認してからペア活動。  
1st Answer には1～3文情報を付け加える。(段階的に設定)  
1st Q&A(+1)のあと、対話の流れに沿った 2nd Q&A を行う。
- ・ ロテーションして相手を変え、3～4セット行う。
- ・ 2セット終了後、不作為抽出でペアによるデモンストレーションを行う。

<実践例> 1st Question のバリエーション

日常的な話題                      How was your weekend? / What's your plan for this weekend?

授業と関連する話題

7年 Do you have to get up at 5 every day? / Is there a convenience store near your house?

8年 What is your future dream? / Which do you prefer, working inside or outside?

9年 How long have you lived in Narita? / Have you ever been to Kyoto?

#### ウ：スピーキングテストに向けたペア練習 【テスト前2週間に実施。10分程度】

定期テスト前後で行うスピーキングテストに向け、帯活動で練習時間を設ける。

- ・ 定期テスト範囲と同じターゲットグラマーを含んだスピーキングテスト。  
ALT が問題作成し、JTE と問題内容、採点方法を確認。  
配点と評価の観点も整理し、結果は成績に加える。  
1人2分間、別室で ALT と1対1でテストを行う。
- ・ ペア練習は隣同士で先生役/生徒役になり、出題・解答する。1分経ったら役割交代。  
自分達でロールプレイすることで、テスト問題を理解し、協力しながら準備できる。  
練習と本番で一部語句を変更して出題する。(答えの丸暗記を避ける。)  
ターゲットグラマー以外の既習事項を使って答える問題も出題する。

## エ：ローテーションとフィードバック

活動は時間で区切り、ローテーションさせる。

- ・相手を変えてたくさん練習する機会を設ける。
- ・生徒の様子を見ながら負荷を加える等、少し変化をつけながら繰り返す。

(1st Answer 後に付け加える英文を2文以上にする、3rd Q&A を付け加える等)

言語活動の基本的流れの中にフィードバック（中間指導）を設定する。

- ・活動前に最低限のモデルを示してまず活動させる。インプットしすぎない。
- ・やってみてうまくいかなかったところを相談したり質問したりする時間を取る。
- ・質問はクラス全体に広げ、生徒に考えさせる。板書して既習事項に気付かせる。
- ・一人でじっくり取り組む時間と、先生や仲間に質問、相談できる時間を分ける。

## (2) 「仮説2」検証のための実践 \* 拡充英語、他表現活動

### ア：具体的な使用場面の設定

相手や状況を具体的に設定し、イメージを持たせるとともに、適切な英語を取捨選択させる。

<実践例>

- 7年 成田に来たいと言っている ALT の友人に、良い季節をプレゼン（拡充英語）
- 8年 ALT の甥からのビデオレターに応じて、成田の名所紹介（拡充英語）
- 9年 異動した ALT に感謝の気持ちを込めて手紙を書く（Tips② for Writing）

### イ：協働的な言語活動

ペアワークからスタートし、3～4人の小グループ、クラス全体とスモールステップでよりよく協働させながら発表体験を積み、自信をつけさせる。協働的な言語活動を通して話したい気持ちが高まっていき、英語でのやりとりに自信がつくとともに、即興性も高まっていくと考えられる。

### ウ：協力して対話を継続・発展させること

モデルを参考に、まずペアで自分が伝えたいことを自由にやりとりさせる。その言語活動を通して互いの発話の良さに気づき、トピックを自分事として広げ、深められるようにする。

## 5 研究の成果と課題

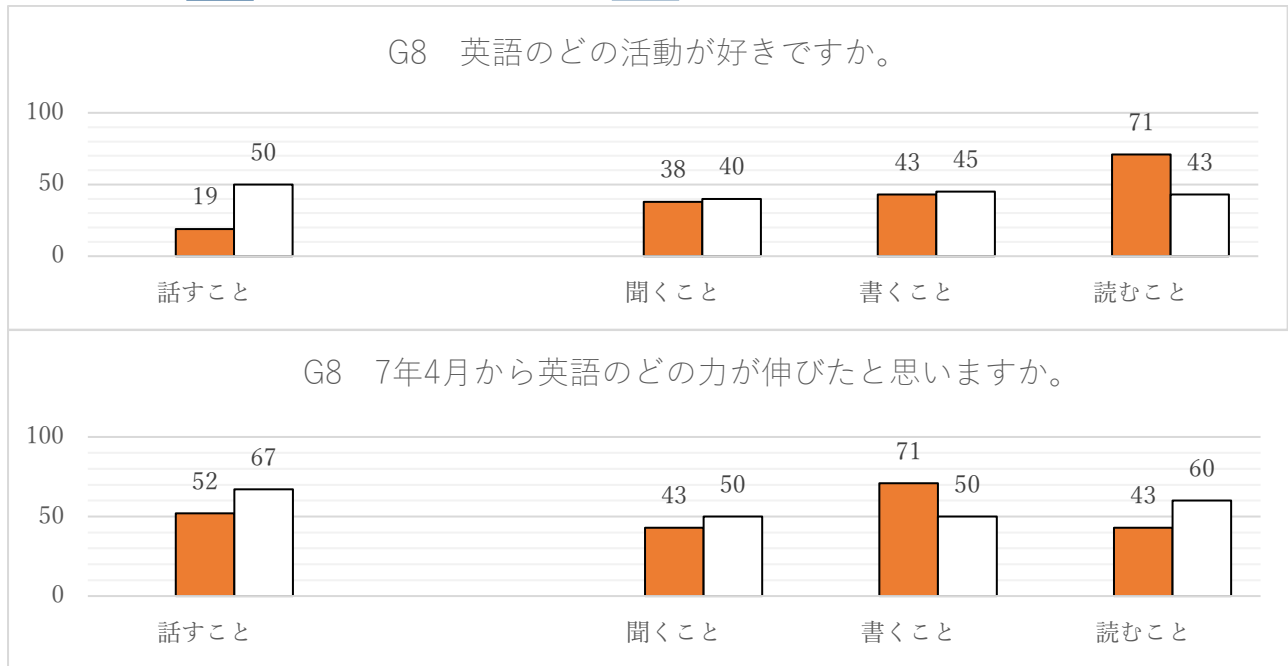
以下は、2年間の研究実践を通して見られた生徒の変容である。

### <意識調査1> 校内英語アンケート

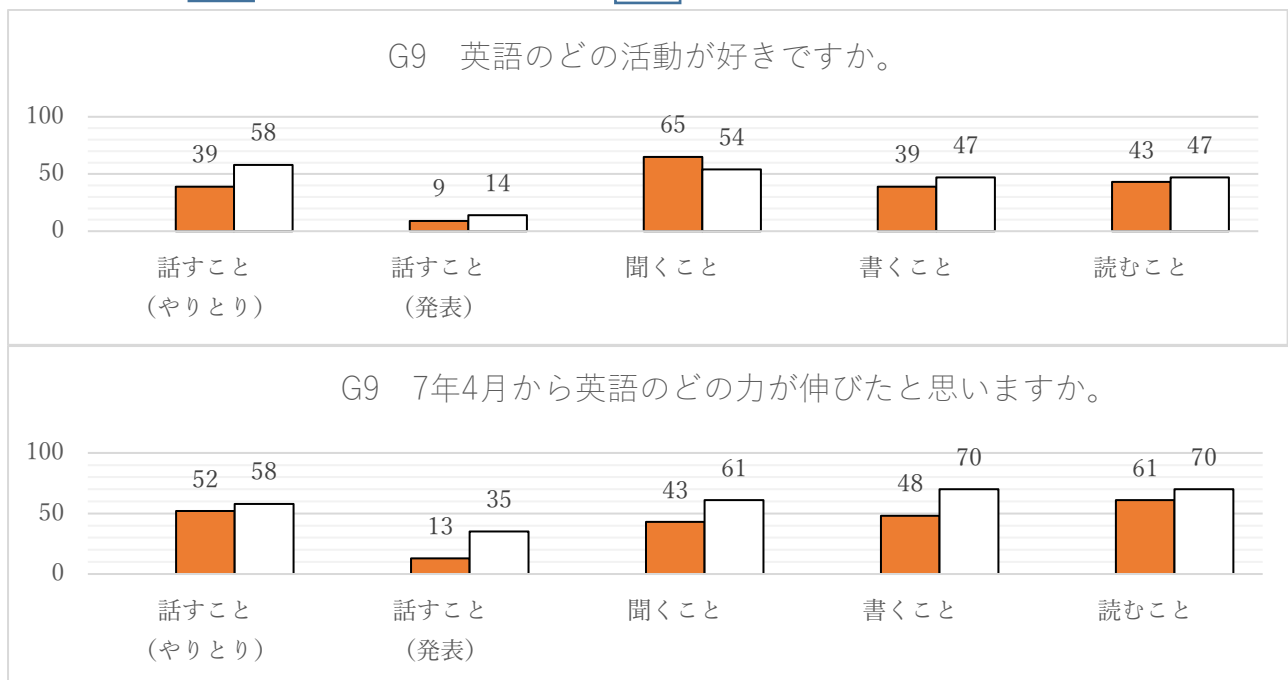
※対象者：本校現8年・現9年生徒（各45人前後）

※複数回答形式、グラフ内の数字は割合（%）

現8年生 ■ 令和5年1月（7年次）、 □ 令和5年7月（8年次）比較



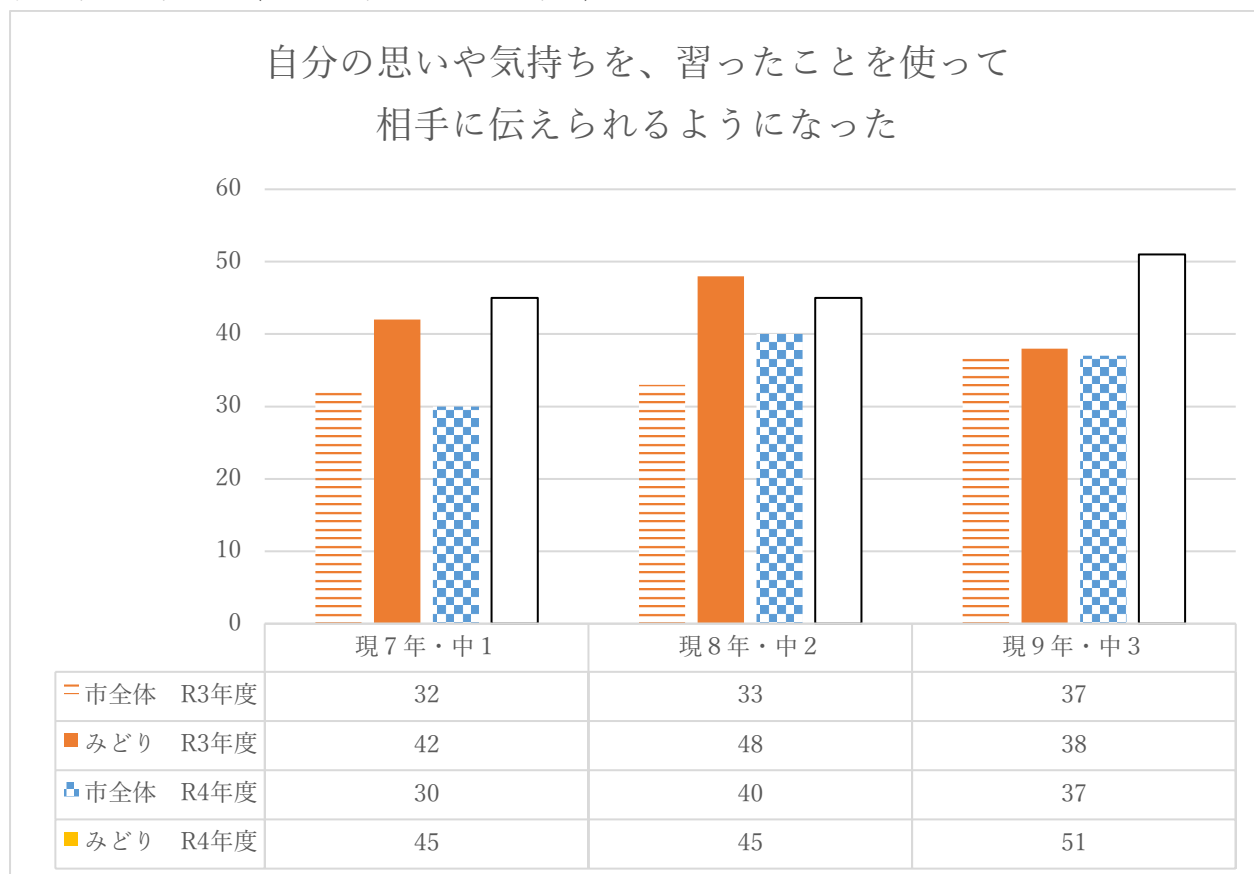
現9年生 ■ 令和4年6月（8年次）、 □ 令和5年7月（9年次）比較



<意識調査2> 成田市英語科アンケート（前述）


 令和3年1月、
 
 令和4年1月比較

現7年生・中1 （R3：5年次、R4：6年次） ※グラフ内の数字は割合（％）  
 現8年生・中2 （R3：6年次、R4：7年次）  
 現9年生・中3 （R3：7年次、R4：8年次）



<意識調査3> 学期末授業アンケート ※対象者：本校現9年44名（R5年7月20日実施）

「英語力がついたと思う活動ベスト3」（自由回答）で61%がPair Q&A と回答

- ・ 毎回話す話題が変わっているから、分からなかったら先生が教えてくれるから。
- ・ 毎回内容が違って楽しんでできたから。
- ・ ペアで取り組むことで内容を補ったり、アドバイスなどもし合えるから。
- ・ 色々な話題について、習った文法を使って自分の意見を話したから。
- ・ いつもやっていて段々と文の組み立て方とかが分かってきたから。
- ・ 友達とやりとりする中ですぐに英文が頭に浮かびスラスラ受け答えできることが増えた。
- ・ とっさに答えられるようになった。



<成田市効果測定> ■ 令和3年1月、  令和4年1月比較

※ALTとのインタビュー時間 小学校：1分～1分30秒程度／中学校：2分程度

インタビューの流れ：挨拶の後、児童生徒が考えてきた質問から始めて会話する。（事前指示あり）

ALTはできるだけ児童生徒が話すよう促す。

会話が止まってしまったらALTから質問するなどして助ける。

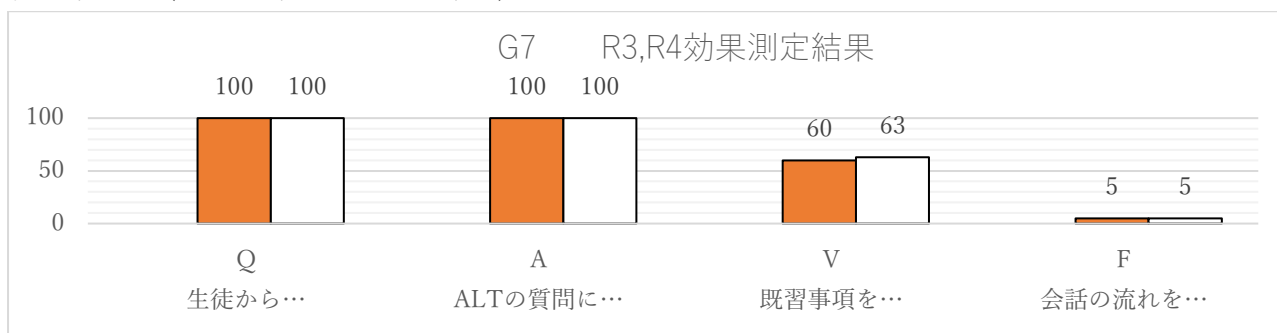
※Q (Question)：児童生徒から質問できる（小学生1つ、中学生2つ）

A (Answer)：ALTからの質問に答えられる

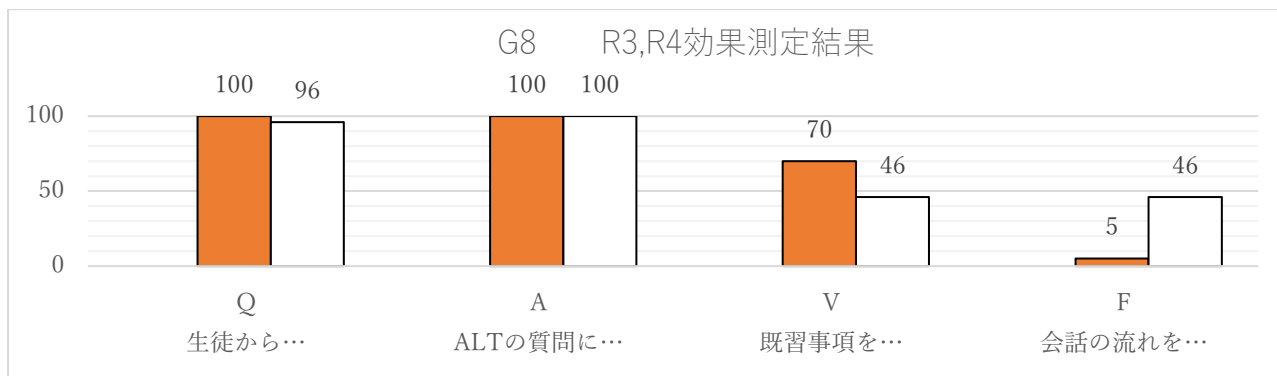
V (Vocabulary)：既習事項（表現・文型等）を多く使おうとする

F (Flow)：会話の流れを汲んだ受け答えができる

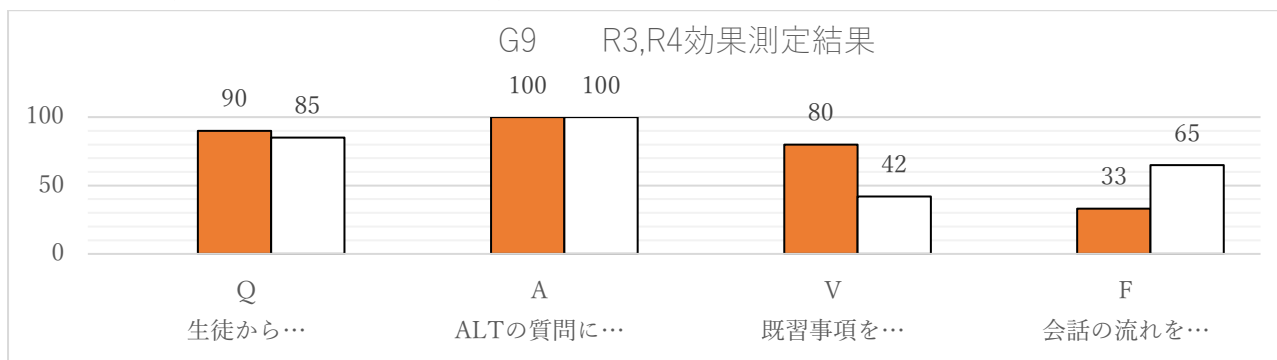
現7年生（R3：5年次、R4：6年次）



現8年生（R3：6年次、R4：7年次）



現9年生（R3：7年次、R4：8年次）



※グラフ内の数字は割合 (%)

(1) 「仮説1」に関する成果(○)と課題(▲)

○帯活動で継続的に実践していることが慣れにつながり、生徒が英語で話すことが一層好きになっている。

・意識調査1「英語のどの活動が好きですか」(複数回答可)				
現8年	「話すこと」	19%(7年次1月)	→	50%(8年次7月)
現9年	「話すこと(やりとり)」	39%(8年次6月)	→	58%(9年次7月)
	「話すこと(発表)」	9%(8年次6月)	→	14%(9年次7月)

○スモールステップで使える表現を増やししながら、中間指導でやりとりの質を高めていったことで、生徒は話すことの力が伸びたという意識が高まり、技能面でも会話の流れを汲んだ受け答えをする力が向上している。

・意識調査1「7年4月から英語のどの力が伸びたと思いますか」(複数回答可)				
現8年	「話すこと」	52%(7年次1月)	→	67%(8年次7月)
現9年	「話すこと(やりとり)」	52%(8年次6月)	→	58%(9年次7月)
	「話すこと(発表)」	13%(8年次6月)	→	35%(9年次7月)
・意識調査2「英語授業を通して、どんな変化がありましたか」(複数回答可)に対し 「自分の思いを相手に伝えられるようになった」と答えた児童生徒の割合				
現8年	本校生徒	45%(7年次)	／	成田市中学1年平均 40%
現9年	本校生徒	51%(8年次)	／	成田市中学2年平均 37%
・意識調査3「英語力がついたと思う活動ベスト3」(自由回答)				
	Pair Q&A と回答した9学年生徒	61%		
・成田市効果測定結果				
現8年	Flow	5%(6年次1月)	→	46%(7年次1月)
現9年	Flow	33%(7年次1月)	→	65%(8年次1月)

※成田市効果測定での様子

□生徒A（現9年男子生徒）の効果測定動画（2年分）	
【動画①】7年次（R3年1月実施）	【動画②】8年次（R4年1月実施）
<p>ALT: Let's start. Please ask me a question.</p> <p><b>S: Question. Ah.....</b> <b><u>What's your favorite food?&lt;Q1&gt;</u></b></p> <p>ALT: Well, my favorite food is Japanese, especially Sushi and <i>Tonkatsu</i>.</p> <p><b>S: <u>Sushi and Tonkatsu. I see.</u></b></p> <p>ALT: And, how about you? What's your favorite food?</p> <p><b>S: Ah..... <u>I like Japanese Soba.</u></b> <b>Ah.....Yeah.</b></p> <p>ALT: Do you like cold soba or hot soba?</p> <p><b>S: Ah..... <u>I like Zaru Soba.</u></b></p> <p>ALT: Zaru Soba. Is it brown or green?</p> <p><b>S: Ah...</b></p> <p>ALT: Brown or green...?</p> <p><b>S: Ah, brown, brown. <u>Brown color.</u></b></p> <p>ALT: I like Udon.</p> <p><b>S: Udon.</b></p> <p>ALT: Do you like Udon, too?</p> <p><b>S: <u>Me, too.</u></b></p> <p>ALT: Can you cook Zaru Soba?</p> <p><b>S: いや... <u>No, no.</u></b></p> <p>ALT: Just eat?</p> <p><b>S: ああ。</b></p> <p>ALT: OK, please ask me another question.</p> <p><b>S: Uh... <u>Where is your birthday?&lt;Q2&gt;</u></b></p> <p>ALT: It is December 30<sup>th</sup>, last month. It's winter How about you? When is your birthday?</p> <p><b>S: <u>I, birthday, my birthday is... September... 11.</u></b></p> <p>ALT: 11<sup>th</sup>, I see. So, it's summer. Sep, is hot,</p> <p><b>S: ??? ... Ah, <u>November. November.</u></b></p> <p>ALT: November? So, it's autumn. OK, thank you. Good job.</p>	<p>ALT: How are you?</p> <p><b>S: <u>I'm great. Are there any restaurant you recommend?&lt;Q1&gt;</u></b></p> <p>ALT: Well, first, I recommend Mamma Pasta.</p> <p><b>S: <u>Ah Mamma Pasta... Pasta, OK.</u></b></p> <p>ALT: Mamma Pasta has spaghetti and pizza.</p> <p><b>S: Ah... <u>What do you favorite pizza... What do you... What kind of pizza...</u></b></p> <p>ALT: ... Do I like?</p> <p><b>S: <u>Yes.</u></b></p> <p>ALT: Margherita, simple.</p> <p><b>S: <u>Margherita...OK, OK.</u></b></p> <p>ALT: How about you? Do you like pizza?</p> <p><b>S: <u>Yes, I do. I like Japanese food... because it is delicious and... fresh.</u></b></p> <p>ALT: And healthy.</p> <p><b>S: <u>Healthy? あ、ヘルシー。OK,OK.</u></b></p> <p><b><u>By the way, ah, what is your hobby? &lt;Q2&gt;</u></b></p> <p>ALT: My hobbies are watching movies and internet shopping.</p> <p><b>S: <u>Internet... Amazon?</u></b></p> <p>ALT: Amazon and Yahoo shopping.</p> <p><b>S: Ah..... Yahoo. <u>That's nice.</u></b></p> <p>ALT: Do you like internet shopping too?</p> <p><b>S: Oh..... internet... <u>No, I don't. But I like window shopping.</u></b></p> <p>ALT: I love that too.</p> <p><b>S: <u>Thank you.</u></b></p> <p>ALT: Where do you go for window shopping?</p> <p><b>S: <u>I went to ... go to AEON and GU, outlet.</u></b></p> <p>ALT: My favorite is Shisui outlet too.</p> <p><b>S: Oh, Shisui. Oh, <u>that's nice.</u></b></p> <p>ALT: How do you go there?</p> <p><b>S: <u>So-so.</u></b></p> <p>ALT: I see. Ok, very good. Very good job.</p> <p><b>S: <u>Thank you.</u></b></p>
<p>&lt; 2つの動画で見られる変容 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発話語数（オウム返しとフィルターを除く）の増加 ※下線部の語数をカウント ：29語（7年次）→59語（8年次）</li> <li>・応答のバリエーション ：一問一答のみ（7年次）→①関連する質問・②③A+1の追加情報（8年次）</li> <li>・事前に考えてきた質問の切り出し方：④⑤ALTに促される前に自分から質問（8年次）</li> <li>・ミスへの気付き（話しながら自分で修正）：⑥（7年次）→⑦⑧（8年次）</li> </ul>	

▲計画的で系統性のある帯活動の質的改善を図り、時間をかけすぎずにコミュニケーション能力を高めていく必要がある。

<改善実践例>

※単元終了後の表現課題に向けて、系統的に Pair Q&A の 1st Question を設定

9年 Les.3 “News and Ads”→Project1 「CM をつくって発表しよう」

1 時間目 How often do you watch TV?

2 時間目 What is your favorite CM?

3 時間目 What CM made you want to buy something?

4・5 時間目 What do you think about this commercial? (CM 動画を見せて)

6・7 時間目 What's your dream product? (CM 作りが進んできてから)

(2) 「仮説2」に関する成果 (○) と課題 (▲)

○発表原稿を書く前にやりとりを通してお互いの良さに気づき、トピックについて「言いたいこと」を増やすことができた。

○即興で活発に会話できたことで、それをライティング活動に繋げることができた。

・英作文 My Special Item (8年拡充英語) 「自分の大切な物を3文以上で紹介」

現9年 意味が伝わる英文の数

3文以上 9% (8年次6月) → 91% (8年次3月)

5文以上 0% (8年次6月) → 59% (8年次3月)

▲自分が伝えたいことを自由に即興で会話を広げるには、さらに語彙力を高めていく必要がある。

・成田市効果測定結果

現8年 Vocabulary 70% (6年次1月) → 46% (7年次1月)

現9年 Vocabulary 80% (7年次1月) → 42% (8年次1月)

※該当学年で習った文法・表現を使おうとする生徒の割合が減少。

学年が上がるにつれ難しくなっていく内容が定着するのに時間がかかるためと考えられる。

また、測定者 (ALT) からは、発達段階的な要因があるのではないかという意見。

→学んだ表現をどんどん使いたくなるような仕掛けを考えていく。(トピック設定の工夫等)  
英検 CAT 等の ICT 教材をさらに活用させ、学習内容定着、語彙力向上を目指す。

本研究を通して一番強く実感したのは、語学を身につけるには「慣れること」が一番大切だということ。自分自身の体験知としてあり、生徒にもずっと伝えてきたが、ある程度実証できたことは嬉しい。何をどのように継続していくか、今後も改善を重ねていきたい。

また、小規模校ながら、前期課程・後期課程の JTE そして ALT がチームとして協力体制ができていることは大きな強みだと改めて考えた。定期的な連絡調整のための教科会議、授業研に向けた指導案検討、相互授業参観を継続していく。本研究を進めながら、日々の教育実践から新たに検討し導入している活動もあるが、現状では、いまだ義務教育学校の特色を十分生かしきれていないと言えない。9年間の生徒の成長を自分の目で確かめることができる環境を意気に感じ、今後もみどり学園らしい英語指導を目指して尽力していきたい。

## 6 参考文献・参考資料

中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語編／文部科学省／開隆堂  
成田市中学校拡充英語指導案／成田市教育委員会  
成田市英語科アンケート・効果測定集計結果／成田市教育委員会教育指導課  
これからの英語授業にひと工夫／阿野幸一・太田洋／大修館書店